



令和6年度 枚方トピックス19号



2月 27日.....小児科医師による研修

関西医科大学附属病院分教室では、入院している子どもたちの治療内容を理解することで、学習支援や復学サポートに活かすために、定期的に研修を実施しています。今回は、「白血病の症状や治療内容について」をテーマに、小児科の山添医師に教えていただきました。

白血病は、患者の70%が急性リンパ性白血病であり、関西医科大学附属病院では、近年、小学生の患者が増えていることをお伺いしました。当病院では、入院してすぐに早期強化治療を行い、入院期間は平均8～9か月とのこと。現在では、治癒する可能性が高い病気となっているとのことで、スライドを使って、症状や治療の経緯、退院後の流れ等を教えていただきました。

退院後の通院期間や回数、復学における配慮面等の話についても具体的に理解を深めることができました。今後も研修を通して、さらに病気や児童生徒の理解を深めていく機会にしたいと考えています。



(写真は研修の様子)